

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年8月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970300129		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム あい		
所在地	高知県安芸市川北甲3731番地		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果 市町村受理日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、山や農地に囲まれた静かな高台にあり、入居者が安心して快適な田舎暮らしができる環境が整っている。入居者は、散歩や行事を通して地域の方と顔馴染みになったり、保育園児や小中学生との触れ合いや併設施設の利用者と交流するほか、自分でできることを生甲斐として役割を担い、畑で花や野菜を栽培したり、音楽療法を通して楽しむなど、ゆったりと過ごしている。また、法人施設全体が災害時における地域の避難場所として指定を受けるとともに、低所得の方でも入居可能な利用料の設定や、退居後も必要に応じて法人が運営している介護保険施設等の利用ができるよう、バックアップ体制も整っており、入居者に安心な暮らしを提供できるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3970300129&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年8月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、ビニールハウスが並ぶ田園風景を眺望できる高台にあり、法人の養護老人ホームやケアハウス、デイサービスセンターなどが併設された総合福祉ゾーンとして位置づけられている。また、施設全体が津波時の避難場所として指定され、地域の自主防災会による避難訓練や炊き出し訓練なども行われている。昨年4月にユニットが増設され2ユニットの規模となっているが、入浴支援や外出支援などに柔軟に対応するため、管理者は職員間との意思疎通を図りながら、業務やケアについて話し合い、一方のユニットで利用者全員が食事やレクリエーションをしたり、利用者同士で支え合う場面づくりをするなど、利用者のできることを大切にケアに取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には、法人理念や事業所が目指す理念について説明している。また、職員会等でも理念について話し合い、実践につなげている。	法人の理念を基本として、その人らしさを大切にしたい介護を目標とする、地域密着型の理念を作成している。日々のミーティングや職員会でケアを振り返りながら理念の意識づけを行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が経営する総合福祉ゾーンとして地域に定着しており、施設合同の行事を通して地域住民と交流したり、保育所、小学校の運動会を見に行くなどしている。また、地域の清掃活動に参加したり、地域住民から野菜などの差し入れがあるなど、地域の一員として交流している。	地域の清掃活動に参加したり、同敷地内の法人施設全体の行事を通して地域住民と交流するとともに、保育園児や小中学生とも触れ合う機会を設けている。また、散歩時に気軽に挨拶を交わしたり、地域住民から花や果物、野菜のお裾分けがあるなど、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の家族の相談を受けたり、中学生の福祉体験学習を受け入れている。また、行事を通して子どもたちの高齢者との触れ合いや、住民の方の認知症への理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者や事業所の状況を議題にあげて報告したり、家族会での意見も報告している。地域や家族の代表や市の職員から意見を出してもらい、サービス向上につなげている。	事業所から利用者や活動の状況について報告し、参加委員からの意見や提案は運営に活かしている。家族の代表委員は輪番制で出席してもらうようにしている。評価結果についても報告しているが、その後の課題等への対応は議事録からは確認できない。	評価後の報告に止まらず、目標達成計画に掲げる課題事項や、その経過等についても議題にあげ、運営に活かしていく取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の実態を理解してもらうとともに、疑問や解らないことがあればすぐに電話したり、出向いて確認を取るなど、日頃からの関係を築いている。	運営推進会議に出席してもらうほか、日頃から制度の運用に関して質問したり指導を得ている。また、市内グループホーム連絡会などの開催を通して交流を図るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに法人全体で取り組んでいる。研修会に参加したり、職員会などで事例を用いて話し合い、入居者の尊厳を確保しながらサービスを提供している。日中は玄関の鍵をかけないようにし、自由に暮らしてもらうよう見守りを中心に支援している。	法人内外の身体拘束に関する研修会に参加するとともに、伝達講習を通して職員に周知し、拘束をしないケアを実践している。言葉による抑制など気になる対応があった場合は、管理者からその都度職員と話し合うようにしている。外出傾向のある利用者には敷地内で自由に散歩してもらうよう見守りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に法人全体で取り組んでいる。研修会に参加したり、事例研究などしながら、入居者の尊厳を確保し、虐待を見逃さないように職員同士で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員に説明したり、家族にも情報を提供している。また、制度の活用について対象者がいないか検討するなど、法人全体で取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時や契約時に重要説明事項や契約内容について十分に納得してもらうよう説明し、同意を得ている。また、改定時にも同様に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年4回開催しており、家族同士で話し合う場も設けている。家族会で出された意見等は運営推進会議でも取り上げ話し合っている。家族からの要望等は事業所にとって宝であり、できることから改善するよう取り組んでいる。	家族会を行事に併せて開催している。その際には家族のみで話し合う機会を設け、その内容は伝えてもらうようにしている。また、面会時や電話などで把握した意向等について職員は連絡ノートで共有し、ケアにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	日々のミーティングや毎月の職員会の中で職員の意見や提案を受け、取り組みに向けて検討し、2ユニットにおける食事や楽しみごと等の支援のための業務改善や、利用者の安全面に配慮してコールマットを購入するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に個別面接を行い、能力に応じた助言や自己能力開発の支援をしている。また、働きやすい職場環境づくりに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修会にできるだけ参加するよう配慮したり、ヘルパー2級養成講座や介護福祉士受験対策講座を実施するなど、資格取得に向けて支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと毎月勉強会を行っている。また、関連の事業所やケアマネジャーの連絡会や研修会にも参加し、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学してもらったり、待機者も含めて相談を受けたり、訪問するなどして不安を軽減し、安心してサービスを利用してもらうよう信頼関係を築くように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みやこれまでの対応、要望等をよく聞き、気軽に相談してもらうなど、信頼関係を築くよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある場合は、法人内外と連絡調整を行い、サービスを利用できるように迅速な対応をしている。また、市にも相談に応じてもらうように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者は人生の先輩であるという認識のもと、日常生活の中で入居者に教えてもらう場面も多くあり、お互いに助け合い、協働しながら生活するようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを積極的に図り、入居者が体調不良などで心細い時は連絡を取り、訪問してもらうなど、お互いに助け合いながら協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人がよく面会に来訪し、交流している。また、自宅周辺にドライブに行くなどして、これまでの関係が継続できるように支援している。	敷地内の養護老人ホームやケアハウス、デイサービスセンターを利用する知人と交流したり、知人、友人の面会を受けたり、通院先で知人と交流するなどしている。また、ドライブがてら自宅周辺や家族が経営するビニールハウス等、思い出の場所に立ち寄るなど、これまでの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお互いが補い合い、協力し合って生活できるように重度者と軽度者を分けて、一緒に過ごす環境や場面づくりをしている。最近では、お茶やご飯を入れたり、手を握って話をするなど支え合う関係もできている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から次の施設への入居等の相談を受けるなど、退居後も継続して関係を保っている。また、亡くなった時には葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に寄り添い、その人の思いに関心を持って接することにより、日々の言動や表情などから希望や意向を把握したり、汲み取るように努めている。	職員は、利用者の生活歴などを念頭に置き、利用者の言動から暮らしの希望や意向を把握している。困難な場合は家族から情報をもらったり、職員からの問いかけや場面づくりなどを通して意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞き取るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、解る力などの現状を把握し、その力を維持できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。	利用者、家族の意向を聞くとともに、職員の気づきや介護記録を基に3カ月毎にモニタリングを行っている。また、重度化の傾向にある中で、利用者個々の現状に応じてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有し、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所や学校と連携したり、地域住民や高校生のボランティア、消防署や地域の自主防災会、地域の代表者との関係を築き、入居者が安心して暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時、受診対応も行っている。	入居時に、利用者、家族の判断で協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回の往診を受けている。専門医への受診支援は職員対応を基本としており、状況に応じて家族の同行を得ている。受診結果は家族に電話で連絡するとともに、職員間は記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内の訪問看護ステーションと連携し、小さいことも、気軽に相談したり、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応など入居時や状態変化のある度に話している。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。	入居時に重度化の対応指針に沿って家族等に説明し、同意を得ている。利用者の状態等に応じて家族の意向を再確認し、医療関係者と連携して支援していくようにしている。これまで事業所での看取りの事例はないが、マニュアルを作成して職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、消防署の協力で普通救命講習を全員が受講し、対応方法を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力も得て、併設施設全体で防火訓練や地震想定の実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や消火機器の使用訓練などを行っている。また、自主防災会による住民参加型の避難訓練に施設を提供している。	併設の法人施設合同で火災や地震を想定した防災訓練を実施している。法人施設は地域の避難場所としての指定を受け、地域の自主防災会による避難訓練や炊き出し訓練をしているが、法人の防災訓練への地域住民の参加は得られていない。災害時の備蓄品は併設施設間で分担して準備している。	災害時には地域の協力が欠かせないので、運営推進会議で防災対策について話し合い、自主防災組織や地域の消防団、近隣の住民に協力を呼びかけ、地域住民の参加を得た防災訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で尊厳の保持に取り組んでおり、職員会でも入居者の誇りやプライバシーを損ねることのない声かけや対応について話合っている。	プライバシーの保護について、毎月の法人全体や複合施設としての研修会のほか、事業所では毎月勉強会を行い、排泄や入浴などのケアの場面で利用者の尊厳保持に向けた対応を周知している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、自己決定してもらうことを大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者の生活のペースを大切にし、希望に沿って買物や散歩など個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて一緒に化粧品を買いに行ったり、訪問理美容を利用するなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所からいただいた旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を食卓に載せている。行事食やカレーライスなどのメニューに応じて職員も入居者と一緒に食べながら、食事を楽しんでいる。	2ユニットの利用者が一緒に食事を摂るようにしており、調理も一方のユニットで行っている。利用者は能力に応じて、調理の下ごしらえや台拭き、盛り付け、食器洗いなどを行っている。職員は食事の介助や見守りを行っているが、行事食などの機会を捉えて利用者と同じ物を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分の摂取状況を把握している。また、管理栄養士とも相談しながら食の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや嚥下体操などの口腔ケアに取り組んでいる。必要に応じて言語聴覚士に相談しながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるようにさりげなく誘導し、自尊心を損なうことのないケアを心がけている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導により、トイレで排泄するよう支援している。布パンツにパッド、紙パンツなど、個々に応じた排泄用品を使用するとともに、自立の現状が維持できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や家事などを通して体を動かす機会を設けたり、食事や水分にも気をつけながら、自然排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるように、朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。	利用者の希望に沿って朝の8時半から夕方7時半頃までの時間帯に入浴支援をしている。状況に応じてシャワー浴などしながら、殆どの利用者は毎日入浴している。拒否のある利用者には声かけのタイミングや家族の面会を依頼するなど工夫しながら、2～3日毎に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れない時はあせらず話を聴き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のできることを把握し、一人ひとりに応じた役割を担ってもらったり、楽しみごとや生き甲斐につながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買物のほか、地域の行事への参加やドライブなど、個々のニーズに沿った外出支援をしている。また、家族の協力も得て外出している。	日常的に事業所周辺や敷地内を散歩したり、中庭で外気浴をしている。また、利用者の希望に沿って量販店に買物に出かけたり、少人数でドライブなどを行っている。また、車椅子の利用者も一緒に併設施設のバスを借りて花見や行楽に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理できる方もおり、洋服やパンなどの訪問販売を利用している。また、買物時は本人が支払う場面づくりをするなどして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける方は、毎月のお便りに書き添えてもらったり、電話で話しができる方には、家族との電話を取次ぐなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に家具等の配置について意見を聞くなど、自分の家という意識を持ってもらいながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	開設当初からのユニットのリビングはやや広く、利用者全員で食事をしたり、カラオケなどのレクリエーションやテレビを観たり、洗濯物たたみなど生活の場となっている。新しいユニットのリビングでは家族や知人等の来訪時に一緒に過ごしたり、独りでくつろぐことができるようにしている。また、テーブルには花を活けるなど、季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置くなど、仲の良い者同士で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら家具や馴染みの物、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾りつけるなど、居心地よく過ごせるようにしている。	テレビや冷蔵庫、整理ダンスや鏡台のほか、ソファや椅子、仏壇、身の回り品など、利用者それぞれに馴染みの品物を持ち込み、家族や職員と一緒に飾りつけをするなど、居心地のよく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かるように入口に暖簾をかけるなど、入居者が安全で自立した生活が送れる環境を整えている。		

ユニット名:

あい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には、法人理念や事業所が目指す理念について説明している。また、職員会等でも理念について話し合い、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が経営する総合福祉ゾーンとして地域に定着しており、施設合同の行事を通して地域住民と交流したり、保育所、小学校の運動会を見に行くなどしている。また、地域の清掃活動に参加したり、地域住民から野菜などの差し入れがあるなど、地域の一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の家族の相談を受けたり、中学生の福祉体験学習を受け入れている。また、行事を通して子どもたちの高齢者との触れ合いや、住民の方の認知症への理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者や事業所の状況を議題にあげて報告したり、家族会での意見も報告している。地域や家族の代表や市の職員から意見を出してもらい、サービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の実態を理解してもらうとともに、疑問や解らないことがあればすぐに電話したり、出向いて確認を取るなど、日頃からの関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに法人全体で取り組んでいる。研修会に参加したり、職員会などで事例を用いて話し合い、入居者の尊厳を確保しながらサービスを提供している。日中は玄関の鍵をかけないようにし、自由に暮らしてもらうよう見守りを中心に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に法人全体で取り組んでいる。研修会に参加したり、事例研究などしながら、入居者の尊厳を確保し、虐待を見逃さないように職員同士で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員に説明したり、家族にも情報を提供している。また、制度の活用について対象者がいないか検討するなど、法人全体で取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時や契約時に重要説明事項や契約内容について十分に納得してもらうという説明し、同意を得ている。また、改定時にも同様に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年4回開催しており、家族同士で話し合う場も設けている。家族会で出された意見等は運営推進会議でも取り上げ話し合っている。家族からの要望等は事業所にとって宝であり、できることから改善するように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に個別面接を行い、能力に応じた助言や自己能力開発の支援をしている。また、働きやすい職場環境づくりに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修会にできるだけ参加するよう配慮したり、ヘルパー2級養成講座や介護福祉士受験対策講座を実施するなど、資格取得に向けて支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと毎月勉強会を行っている。また、関連の事業所やケアマネジャーの連絡会や研修会にも参加し、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学してもらったり、待機者も含めて相談を受けたり、訪問するなどして不安を軽減し、安心してサービスを利用してもらうよう信頼関係を築くように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みやこれまでの対応、要望等をよく聞き、気軽に相談してもらうなど、信頼関係を築くよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある場合は、法人内外と連絡調整を行い、サービスを利用できるように迅速な対応をしている。また、市にも相談に応じてもらうように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者は人生の先輩であるという認識のもと、日常生活の中で入居者に教えてもらう場面も多くあり、お互いに助け合い、協働しながら生活するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを積極的に図り、入居者が体調不良などで心細い時は連絡を取り、訪問してもらうなど、お互いに助け合いながら協力関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や知人がよく面会に来訪し、交流している。また、自宅周辺にドライブに行くなどして、これまでの関係が継続できるように支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士でお互いが補い合い、協力し合って生活できるように重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごす環境や場面づくりをしている。最近では、お茶やご飯を入れたり、手を握って話をするなど支え合う関係もできている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族から次の施設への入居等の相談を受けるなど、退居後も継続して関係を保っている。また、亡くなった時には葬儀に参列している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者に寄り添い、その人の思いに関心を持って接することにより、日々の言動や表情などから希望や意向を把握したり、汲み取るように努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞き取るように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、解る力などの現状を把握し、その力を維持できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有し、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所や学校と連携したり、地域住民や高校生のボランティア、消防署や地域の自主防災会、地域の代表者との関係を築き、入居者が安心して暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時、受診対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内の訪問看護ステーションと連携し、小さいことも気軽に相談したり、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応など入居時や状態変化のある度に話している。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、消防署の協力で普通救命講習を全員が受講し、対応方法を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力も得て、併設施設全体で防火訓練や地震想定訓練を実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や消火機器の使用訓練などを行っている。また、自主防災会による住民参加型の避難訓練に施設を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で尊厳の保持に取り組んでおり、職員会でも入居者の誇りやプライバシーを損ねることのない声かけや対応について話合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、自己決定してもらうことを大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者の生活のペースを大切に、希望に沿って買物や散歩など個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて一緒に化粧品を買いに行ったり、訪問理美容を利用するなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所からいただいた旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を食卓に載せている。行事食やカレーライスなどのメニューに応じて職員も入居者と一緒に食べながら、食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分の摂取状況を把握している。また、管理栄養士とも相談しながら食の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや嚥下体操などの口腔ケアに取り組んでいる。必要に応じて言語聴覚士に相談しながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるようにさりげなく誘導し、自尊心を損なうことのないケアを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や家事などを通して体を動かす機会を設けたり、食事や水分にも気をつけながら、自然排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるように、朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れない時はあせらず話を聴き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のできることを把握し、一人ひとりに応じた役割を担ってもらったり、楽しみごとや生き甲斐につながるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物のほか、地域の行事への参加やドライブなど、個々のニーズに沿った外出支援をしている。また、家族の協力も得て外出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを管理できる方もおり、洋服やパンなどの訪問販売を利用している。また、買物時は本人が支払う場面づくりをするなどして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける方は、毎月のお便りに書き添えてもらったり、電話で話ができる方には、家族との電話を取次ぐなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に家具等の配置について意見を聞くなど、自分の家という意識を持ってもらいながら居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置くなど、仲の良い者同士で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら家具や馴染みの物、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾りつけるなど、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かるように入口に暖簾をかけるなど、入居者が安全で自立した生活が送れる環境を整えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				